

The background of the entire page is a light beige color. It features several faint, stylized green illustrations of hands. Some hands are shown holding or supporting large, flowing green leaf-like shapes that sweep across the page. Other hands are positioned more subtly, some appearing to hold smaller leaves. The overall theme is one of care, support, and community.

かすが市民懇話会 活動報告書

～まちづくりと人づくりの春日市を目指して～

平成23年度(第7期・第8期会員)

平成24年7月2日

平成 23 年度かすが市民懇話会活動報告について
「年間テーマ（活動方針）」
「まちづくりと人づくりの春日市を目指して」

「かすが市民懇話会平成 23 年度活動報告書」の提出にあたり、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

平成 23 年度は、2 年目の 7 期生 20 名、1 年目の 8 期生 10 名の合計 30 名での市民懇話会スタートになりました。

会のスタートにあたり、全会員からのアンケート調査をもとに、会員諸氏の様々な意見及びこれまでの懇話会の運営内容等を考慮し、副会長並びに行政管理課の事務局の方々とも協議・集約した結果、年間テーマとして「まちづくりと人づくりの春日市を目指して」を設定し、

- 7 月 「会員依頼書交付・市民懇話会趣旨説明・新会員自己紹介等」
- 9 月 「防災（災害への備え）について」
- 10 月 「春日奴国あんどん祭りについて」
- 1 月 「教育と福祉について」
- 3 月 「市の文化財を活かすには」
- 5 月 「今後の懇話会のあり方について」

をテーマとして、2 か月に 1 回のペースで、毎回の設定テーマに沿って活発な意見交換・懇話を実施してきました。

この 1 年間の活動期間中、色々な社会現象或いは事件・災害が発生しましたが、こう言ったことも踏まえながら、懇話会メンバーの方々から時宜に適した様々な、熱い意見交換・懇話がなされ、少しでも春日市の発展に貢献できたらの懇話会会員諸氏の思いが十分に伝わる、非常に有意義な 1 年間だったと思っております。

懇話会の運営方法として、昨年と同じように「奴国の丘歴史資料館」を研修し、春日市の公共施設の現状を再把握するとともに、現場職員の方々の公共施設に対する活性化の悩み等を直に聞き、一般市民目線で、色々な意見交換・意見提示ができました。

また、23 年度から「春日市あんどん祭り」が安全確保のため花火を中止し、形を変えて「春日奴国あんどん祭り」として再出発するにあたり、「祭り実行委員会」代表者の方からその実施構想を拝聴し、一般市民目線で色々な意見を提示させていただいたことも市民懇話会として大きな役割を果たせたのではないかと考えております。

市民の皆様の中には、日ごろから色々なボランティア活動に活躍されている方がたくさんおられることを市民懇話会を通じて知りました。その反面、市の行政、ボラン

ティア活動に無知・無関心で、積極的に関わろうとしない方も多数おられるのも事実です。

私も市民懇話会のメンバーになったことにより、メンバーの皆様方と懇話でき、色々な物の見方、考え方、また、多くの方々が春日市を良くするため日々努力しておられることを再認識し、私自身反省するとともに、私にとって非常に貴重な、有意義な体験でした。

今後、我々市民懇話会のメンバーは、市役所の手となり、口となり、目となって、市の施策が市民に浸透するよう活動することが市に対する大きな一助になるものと認識し、自分の周りの方々に「かすが市民懇話会」の存在をPRし、入会を誘って頂きたいと思います。

「かすが市民懇話会」メンバー経験者が市民に1人でも多くなることが、中・長期的に春日市をより良くしてゆく方策の1つと考えております。

また、万が一の春日市の危機発生時には、「かすが市民懇話会」メンバー経験者が中心となり、市民を代表するリーダーとして、市に頼るだけでなく、「自助・共助精神」を発揮するよう活動され、町内会・隣組単位で危機を克服することが、春日市の危機を克服することにつながるものと考えております。

この1年間、懇話会メンバーの方には職務でお忙しい中、懇話会での活発な意見交換、建設的な意見発表等、懇話会に積極的にご参加・ご協力をいただき、「平成23年度かすが市民懇話会」が大過なく終了できたことにお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、ご公務で大変お忙しい中、井上市長様、各部長様、チューターを務めて頂いた市役所職員の皆様及び行政管理課課長以下スタッフの皆様には、大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

特に、行政管理課課長以下スタッフの皆様には、会議場所の設定、各会議毎の議事録の作成並びに年間活動報告書の作成等、すべてに関してお支援を頂いたことは、懇話会の存続にとってなくてはならない存在であり、心よりお礼を申し上げますとともに、市長様、行政管理課のスタッフの皆様及び懇話会メンバーの方々の今後のご多幸とご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

1年間、大変お世話になり、ありがとうございました！！

平成24年7月

かすが市民懇話会

平成23年度会長 伊藤 信輔

かすが市民懇話会活動報告書 も く じ

1	かすが市民懇話会の概要	1
2	各回懇話会の会議録	2
3	各回意見の集約	24
4	懇話会模様	27
5	第7期会員からのメッセージ	30

【資 料】

- ・ かすが市民懇話会会員名簿

かすが市民懇話会の概要

1 設置目的

『かすが市民懇話会要綱』第1条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

2 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市をもっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために、市民の視点で捉えた市の課題を行政と協働して解決していくための方策を話し合う場」と捉え、『かすが市民懇話会要綱』第2条により、次の活動を行いました。

- ・ 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- ・ 市政の運営に関する調査及び研究
- ・ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの活動に対する市行政の対応は、次の通り規定されており、懇話会の活動に際しての庶務は、行政管理課が行うとされています。

市長は、提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努める。

3 平成23年度の懇話会の活動

< 年間テーマ >

まちづくりと人づくりの春日市を目指して

< 活動内容 >

各回テーマ及び講話内容について

開催月	テーマ	内容	講話内容
9月	防災(災害への備え)について	自分ができること 地域ができること 行政にしてほしいこと	・ 東日本大震災に係る復旧支援派遣職員による活動報告 ・ 防災(災害への備え)について
11月	春日奴国あんどん祭りについて	もっと魅力ある祭りにするための提案 新しい祭りの感想など	春日奴国あんどん祭りの模様(ビデオ・スライドショー)
1月	教育と福祉	高齢者支援 子どもの育成 子育て支援	
3月	市の文化財を活かすには	歴史資料館の見学 文化財の活用について懇話	春日市の文化財の紹介 施設見学など
5月	懇話会のあり方について	今までの懇話会の活動に対する意見など	

時間: 午後7時から午後9時

- | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------------|
| ・ 午後7時00分～午後7時10分 | 開会、会長挨拶、市長挨拶 (10分) | |
| ・ 午後7時10分～午後7時30分 | 講話、質疑応答 (20分) | 講話がない場合は、講話時間を懇話時間に繰入 |
| ・ 午後7時30分～午後8時30分 | グループ懇話 (60分) | |
| ・ 午後8時30分～午後8時45分 | 懇話内容発表 (15分) | |
| ・ 午後8時45分～午後9時00分 | 講師及び市長所感、閉会 (15分) | |



かすが市民懇話会の会議録

(第 4 3 回 ~ 第 4 8 回)

第43回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成23年7月26日(火)
- 2 時間 午後7時から午後8時15分
- 3 会場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 24名〔欠席(6名)〕
第7期会員(一般公募)伊藤 信輔、井上 池畦子、梅崎 孝彦、柿本 人司、
齋藤 泰英、坂本 鴻、野田 久雄、古川 美穂子、松尾 一昭
第7期会員(団体推薦)軽部 雅子、黒川 宗人、重 正嘉、高野 光雄、谷 恵美子、
中川 紀美代、久富 典子
第8期会員(市民公募)今村 太陽、緒方 寛、神代 俊史、篠原 貴美恵、西村 瑞枝
東 強志、松原 至、吉田 紀美
春日市長、事務局(総務部長、行政管理課長、行政管理課統括係長、行政管理担当職員2名)
- 5 会の内容
 - (1) 開会
 - (2) かすが市民懇話会第8期会員及び第7期団体推薦変更会員(高野 光男氏)依頼書交付
 - (3) 市長あいさつ
 - (4) 会員自己紹介
 - (5) 「かすが市民懇話会」概要説明
 - (6) 「かすが市民懇話会」役員互選
かすが市民懇話会要綱第4条の規定に基づき、会長及び副会長の互選。伊藤 信輔氏(平成22年度かすが市民懇話会会長)が他薦により会長として了承される。副会長3名は、
第7期から1名、第8期から2名を話し合いにより以下の3名が選出される。
会長 : 伊藤 信輔(第7期市民公募会員)
副会長: 久富 典子(第7期団体推薦会員)
今村 太陽(第8期市民公募会員)
吉田 紀美(第8期市民公募会員)
 - (7) 活動方針協議
年間テーマ、懇話会の回数、各回のテーマ、講話の有無等について、会員からアンケートを参考に、役員会へ一任することとなる。
特に取り上げてもらいたいことについて、以下の意見が提出された。
・自衛隊や市役所内、水道企業団等の施設見学をしたい。
・開催日の曜日(土、日曜日)や時間(日中の時間)を考えてほしい。
・テーマを掘り下げるために、臨時会も考えて欲しい。
 - (8) 市長所感
 - (9) 閉 会

第44回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成23年9月26日(月)
- 2 時間 午後7:00～午後9:00
- 3 会場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員22名〔欠席(8名)〕
春日市長、総務部長、行政管理課長補佐、事務局(行政管理担当)、
道路防災課(消防防災担当)統括係長、主任

5 会の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 市からの講話

「東日本大震災に係る復旧支援派遣職員による活動報告」：道路防災課 縄田主任

皆さん、こんばんは。道路防災課で消防団等の業務を担当している縄田と申します。

本日は、東日本大震災に係る復旧支援派遣職員による活動報告という標題でお話をさせていただきます。

私は、平成23年5月14日から10日間程、宮城県気仙沼市に支援に行かせていただきました。この気仙沼市は、風光明媚な港町だった場所でしたが、災害発生から2ヶ月が経過した後も、家は崩れたまま、大きな道路のみ整備された状態で、朝や夕方の渋滞が酷いという状態で、また、テレビ等で大きな船が陸に乗り上げた状況を見られたと思いますが、このような状況は続いていました。さらに、地震で地盤が沈下し、海水が海に引かずそのまま腐ってしまい、魚の腐った様な臭いが港に充満していました。

活動の内容は、避難所での支援です。場所は、松岩公民館というところです。ここには、松岩地区の住民160人が避難生活をされておられました。災害が発生した当初は、1,000人を超える方が避難生活をされておられたそうで、当然、寝る場所もなくひしめき合っている状況だったとのこと。東北地方は地震や津波を経験したこともあり、災害に対する備えを十分にされておられますが、それでも物資は不足するような大災害であったため、毛布1枚を3人で分け、身体の不自由な方を出来るだけ部屋の中で生活していただくため、元気な人は外で生活をするという状況であったと聞いています。3月とは言っても、東北地方の3月は九州とは比べものにならない程の寒さで、耐え難いものであったと思います。

このような状況から2ヶ月後に派遣された公民館の状況は、物資も満たされ、食べ物や飲み物が公民館のアリーナに山積みとなっており、空腹を覚悟していたのですが、ジュースなどを「どうぞ、飲みなさい。」と言われるような状況で、公民館の調理室で調理された暖かい食事も頂きました。これは、他の公民館(避難所)と比べ恵まれた環境でした。他の公民館にも職員が派遣されており情報交換をしたところ、食べ物や飲み物が不足しているところや、毎日、菓子パンやカップラーメンを食べているところがありました。

このような状況の差が生じた理由は、情報発信力の差でした。松岩公民館は、気仙沼市を通じて、今何が足りないのかを詳細に市に伝え、市のホームページや社会福祉協議会のボランティアセンターの情報をその都度更新されていました。避難生活に必要なものは、発生直後と1～

2ヶ月後とでは、違ってきます。また、何か支援をしたいと思っておられる人は、全国におられますが、今、何が必要とされているのか抽象的にしか分からないのです。そこで、何が必要かの情報を発信することで、必要な物資で満たされた状態となったのです。情報発信力のないところは、水やカップラーメンなど通り一辺倒の支援しかなく、避難所生活の環境に差が生じることとなりました。

これは、共助に繋がる部分かと思いますが、災害時は、地域の皆さんで公民館を運営し、必要なものを発信していく力がとても重要となります。

この発信力がどのようにして、培われたかという公民館の統率力であると感じました。公民館に100人～300人という規模の人間が生活する中で生じる、様々なニーズをくみ取り発信しなければなりません。これを一人の人間が行うことは、困難ではありますが、松岩公民館の場合、公民館長、その下に世話人が数名、その下に班長がいるという組織をつくり、毎日1回、ミーティングを行い、その中で可能な限りニーズをくみ取り、逆にそこで決まったこと以外の不満は言わないようにというように、とても統率されうまく運営されていました。

本日は、「自助」「共助」「公助」というテーマでの懇話と聞いていますが、私の話は、共助の大切さに関することだと思います。公助というものは、被害が甚大なところから支援に向かうため、特に大きな災害のときは、きめ細かな支援を公助に求めることは困難です。ですから、普段から地域の繋がりを強くしておかなければ、いざというときに、対応できないという状況になりかねませんので、このような機会に、「自助」「共助」「公助」のそれぞれの役割を考えていただければ、災害に強いまちづくりの第一歩になるのではないかと思います。

「防災(災害への備え)」：道路防災課 大坪統括係長

皆さん、こんばんは。道路防災課統括係長の大坪と申します。私からは、「自助」の観点からお話をさせていただきます。

皆さんは、避難する場所がどこかご存知でしょうか。一時避難場所として各地区公民館や収容避難場所として小・中学校などがあります。まずは、近隣の避難所・避難場所がどこにあるかを知っていただき、自宅からどのような経路で避難をしたらよいか知っていただきたいと思います。その際は、地震が起こった場合にブロック塀が倒れて通れない道にならないかなども、日頃から考えていただければと思います。

また、簡単なものから申しますと、大きな地震が発生した場合、家具が転倒したり、ガラス窓が割れるなどの被害が想定されます。阪神・淡路大震災では、テレビが飛んできたとも聞きます。また、家具が倒れたことで、ドアの開閉が出来ず避難できないこともあります。これらの防止策として、固定具や粘着テープを使い対策を講じるなど、小さなことから構いませんので、災害に対する備えをしていただければと思います。

(4) グループ懇話(9月のテーマ『防災(災害に対する備え)について』)

1班 『自分ができること(自助)』

(班員：田口 誠市〔司会〕、今村 太陽〔発表・記録〕、谷 恵美子、中川 紀美代、松原 至、柿本 人司、井上 池畦子、緒方 寛)

自助班では、資料として配られました「都市の危機管理」にある四識(意識、認識、知識、

組織)が、大切ではないかという結論にいたりました。

懇話の中では、日頃から避難場所や避難経路を家族と話し合うことが大切ではないか、自分自身で家から避難場所まで行き確認することが必要ではないかという意見がありました。

また、近所付き合いが希薄になっている現代ではありますが、同時に高齢化社会を迎え、支援が必要な人も増えているので、地域と繋がりが重要であり、その必要性を自治会の広報誌等に載せて個人個人の意識付けを促せば、意識の共有が図られ地域との繋がりが広がっていくのではないかと思います。

他に、災害に常に備えておくことが大切だという意見もありました。日頃からカバンに水を入れて備えているという方もおられ、このようなことも「自助」として大切であると感じました。また、災害に備えるという意味では、食料の備蓄や台風の時に雨戸を閉めるなどの対策も大切だという意見がありました。

最近、浸水ハザードマップというものが配付されました。文字が小さく見難いという意見がありましたが、見て確認することも「自助」となるので、自分の住んでいる地域だけでも拡大コピーして確認をしていただければと思います。

他にも様々意見がでました。「自助」を促して「共助」になり、「共助」を促して「公助」となり、すべてが連動しているのだと思います。私のような若い世代の人達は、災害への備えを何かしているという話をほとんど聞きません。行政がなんとかしてくれるので、何もしなくても大丈夫だという意識を持った人が多いのだと思います。私も含めて、ひとりひとりが「自助」の大切さを少しでも意識していけば、少しずつでも変わっていくのではないかと思います。

2 班 『地域ができること(共助)』

(班員：梅崎 孝彦〔司会〕、黒川 宗人〔発表・記録〕、伊藤 信輔、小山 雄二、高野 光雄、東 強志、長野 彰)

「共助」の班では、地域でできることについて懇話をしましたが、地域ごとに防災訓練を行っている自治会もあれば、そうでない自治会もありました。したがって、最低限どのようなことをしたらよいかまとめさせていただきます。

まずは、皆さんに自治会を利用いただき、地域ぐるみで防災意識を高めていかなければならないと思います。その方法として、市(行政)が地域に防災訓練を促す必要があるのではという意見がありました。他に、20 所帯くらいの小規模ごとに防災リーダーを作り、防災意識を広めていってはどうかという意見もありました。

しかし、自治会では地域みんなが話し合う機会も少ないかもしれませんので、5 年 10 年かかると思いますが、我々懇話会の会員が防災に対する意識を十分に認識し、それぞれの地域で広め、地域の防災活動を活性化させていければという結論になりました。

3 班 『行政にしてほしいこと(公助)』

(班員：久富 典子〔司会〕、吉田 紀美〔発表・記録〕、西村 瑞枝、神代 俊史、北村 哲、野田 久雄、篠原 貴美恵)

「公助(行政にしてほしいこと)」の班では、様々な意見が出ましたが、最後に行き着くところ

ろは、自分のことは自分で守ることが、一番大切であり、「自助」、「共助」、「公助」の順で重要であるという結論にいたりました。

ところで、私の弟は宮城県三陸町に住んでいますが、東日本大震災のときの状況を聞くと、停電してテレビも映らないので、全く状況が分からなかったとのこと。状況を把握していたのは、むしろ、テレビを見ていた我々だったのかも知れません。そういった意味で、情報をどこから入手するかということは、最も重要なことかも知れません。

最近テレビを見ていましたら、コンビニエンスストアに衛星電話を設置したということを知りました。行政の方に、公民館にも設置してはどうかというお話をしましたら、災害時優先電話というものが設置されているそうです。私自身、自治会の役員をしているにも係わらず、知らなかったことに驚きとともに、地域や行政のことを知る努力をしなければと感じました。そのためには、自治会役員として防災訓練などの様々な行事を行う中で、参加者が少ない状況が見受けられますので、防災訓練には必ず出ていただくようにするなどのことから、取り組んでいかなければと思いました。

また、災害発生後に、自身が無事か助けてほしいのかを、大丈夫なら白旗、助けてほしいときは赤旗というように、目印をつくったらどうかという意見もでした。

他に、最近配られた浸水ハザードマップは、どこにあるかも分からなくなっている人もいると思うので、市からも何度も配付したと活用していただくように、周知をしてはどうかという意見も出ました。このような周知徹底や防災訓練に参加を促すことも「公助」、行政にしてほしいことと思っていますので、お願いしたいと思います。

(5) 市長所感

本日も「防災」について、熱心にご討議をいただきありがとうございました。「自助」「共助」「公助」という3班から、様々なご意見をお聞きし、率直に感じましたことは、災害対策というものは、どうしても日頃は忘れがちになってしまうものなので、この機会が大きな意識付けに繋がったのではないかという気がいたしております。ですから、日頃から様々な機会を見つけて災害について考える場を作っていただくことも大切であると感じました。

また、災害を想定した場合、考えておかなければならない対策は「自助」の部分であり、ご討議の中でも、その結論に辿りつくことになったと思います。市（行政）が手を抜くという訳ではありませんが、地震等の突発的な災害には、時間帯により職員が市役所にいないため、即座の対応ができないこともあるからです。

あるいは、災害とは申しまして、地震、大雨、台風、火災など様々な種類があります。その種類によっては、避難場所へ避難するよりも自宅で待機した方が安全な場合があります。

東日本大震災で東北地方を中心に甚大な被害が生じたことにより、本市でも災害対策について、多くのご心配やご意見を市議会や出前トーク等でいただきました。しかしながら、未曾有の大災害に対する備えとなると、根本的な対策は困難です。むしろ、我々行政が考えなければならぬ対策は、近年頻発している大雨による浸水や福岡西方沖地震と同程度の地震、台風、火災などを、どのように防いでいくかということであり、その延長線上が未曾有の大災害対策に繋がっていると考えています。

この対策として、全35地区で自主防災組織を立ち上げていただいておりますが、その内に

防災訓練をやっているのは、20地区程度と認識しています。組織はあるけれども、機能するには至っていない状況かと思います。市としては、自治会と協議をさせていただきながら、組織の活性化を促していきたいと思います。

市でも防災訓練を実施しており、今年は9月4日に実施をいたしました。市民の皆様方にご参加もいただき、災害を想定した様々な訓練を行い、防災の意識付けに繋がったよい機会になったと感じています。

しかしながら、訓練の最後に行政側にワイヤレスマイクの乾電池が切れてしまうというミスがありました。職員が手を抜いていたという訳ではなく、人命に係わる大きなことに対する想定には注意して取り組んでいても、意外なところが抜け落ちていたりします。ですから、訓練をすることで、気が付き身に付いていくのではないかと思います。

情報の周知に関してのご意見もありましたが、市の職員は1度市報に掲載すれば、全市民に伝わったと思い込んでいることがあります。ご意見にあったように、重要なことはその時々で年に何回も市報に掲載し、市民に対する意識付けを促していかなければならないと感じましたので、是非とも取り組んでまいりたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。

第45回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成23年11月17日(木)
- 2 時 間 午後7:00～午後9:00
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員22名〔欠席(8名)〕
春日市長、行政管理課課長、行政管理課課長補佐、事務局(行政管理担当)
地域づくり課(商工農政担当)課長補佐
春日市民祭り振興会 山口企画室長

5 会の内容

(1) 会長あいさつ

(2) 市長あいさつ

(3) 春日奴国あんどん祭りの模様

- ・ビデオの放映
- ・写真のスライドショー

(4) グループ懇話

(11月のテーマ『春日奴国あんどん祭りについて～新しい祭りの感想、もっと魅力ある祭りにするための提案など～』)

1班(班員:伊藤 信輔〔司会〕、小山 雄二〔発表・記録〕、田口 誠市、緒方 寛、東 強志、松原 至)

まず、あんどん祭りの当初の目的が何だったのかという内容の意見交換を行いました。その中で、市民祭りなのだろうか、春日市を活性化させるための人集めのイベントなのだろうか、もしくは、他に目的があるのだろうかという意見がありました。

市民祭り振興会の山口様にお聞きしたところ、昭和52年の市制施行50周年の記念事業として始められ、春日市にある古代文化の遺跡とともに眠る古人とふるさとをしのぶため、古人の暮らしの光でもあった行灯(あんどん)を灯すという趣旨とのことでした。

しかしながら、花火という一過性の事業となり、市民自らが楽しみ親しむという趣旨もあるようですが、県内でも有数の花火大会ということで市内外から多くの人が集まり、安全性の問題等により、リニューアルされたと聞いております。

提案としては、趣旨に沿った祭りのあり方を考えなければならないのではないか、名称を「春日奴国あんどん祭り」ではなく奴国を全面に出して「奴国祭り」などにしてはどうか、奴国時代の衣装を着て「博多どんたく港祭り」のように市中を歩いて到着地点でイベントを開催したり、衣装のデザインに賞を出したりしてはどうか、また、小中学校や育成会と協力し山車を学校や自治会ごとに作ってはどうかなどの意見がありました。

市民祭り振興会の山口様にお聞きしたところ、今年は4小学校から800個のあんどんを作っていただいたようです。このように、市民が参画できれば盛り上がるイベントになるのではないかと感じました。

2班（班員：吉田 紀美〔司会〕、久富 典子〔発表・記録〕、梅崎 孝彦、柿本 人司、古川 美穂子、松尾 一昭、高野 光雄、前園 敦子）

皆さんに活発な議論をいただき、4～5 つ程の意見にまとまりました。

まず、雨などの天候に左右されない方がよいのではないかという意見があり、具体策としては、ふれあい文化センターをメイン会場にしてはどうか、市役所と航空自衛隊の間の道を露店等にしてメイン会場を市役所駐車場にすれば、今回のように、雨でも足もとがぬかるむことがないのではないかという提案がありました。

次に、あんどんを灯すことの趣旨が、市民や特に子どもたちへの周知がされておらず認識されていないため、祭りに魅力を感じていないのではないかという意見があり、その方策として、ある会員から、自分のふるさとでは夏祭りのときに、各家庭であんどんを用意して家の前に置き歩く人の足元を照らしており、このようにすれば各家庭で子どもたちも加わりあんどんを作るようになるのではないかという提案がありました。また、どのようにしたらあんどんが作れるかの体験スペースのようなものがまちの中にあれば、あんどんを身近に考えられるのではないかという提案もありました。

次に、奴国の丘フェスタの翌週に春日奴国あんどん祭りが開催され、更にその翌週に、市の文化祭が開催されると、市民の意識や力も分散されてしまうので、何らかの形で集中した方がよいのではないかという提案がありました。また、このことに関連して、開催時期の意見がいくつかでしたが、やはり 10 月が良いという結論に至りました。

次に、組織の問題です。班員の中にも実行委員会に所属している方もいますが、実行委員会の役割が不明確であったとの意見があり、市民祭り振興会もマンパワーが不足しているだろうから、実行委員会とうまく連携・活用すれば、市民参画の祭りなり多くの人の視点から様々なアイデアが出され、マンパワーも拡充していくのではないかという提案がありました。

まとめとして、市民の皆さんがあんどんに対して近い感じを持っているとは思えない点が課題であること、また、私論ではありますが、リニューアル初回が悪天候となったことで、その他の課題もすべてあらわになったことは、逆に、良かったと感じました。

3班（班員：今村 太陽〔司会〕、長野 彰〔発表・記録〕、齋藤 泰英、坂本 鴻野田 久雄、北村 哲、重 正嘉、谷 恵美子）

3班では、今回からリニューアルされました春日奴国あんどん祭りを盛り上げるには、どうしたらよいかという具体的な提案がありました。提案の内容は、祭りの参加者に関することと、祭りの時期や内容、コラボレーションの大きな 2 つに分けられます。

まず、参加者については、多くの市民が参加できる祭りとするべきではないか、それも、すべての年代の人が参加できる祭りとするべきではないか、また、子どもたちを育てていくような祭りにしていくべきではないかという提案などがありました。

次に、開催時期について、10 月ではなく、祭りのシーズンでもある 8 月であるとか、もしくは、クリスマスの時期である 12 月の方が、ふさわしいのではないかという意見がありました。

内容については、日本一の祭りとなるような、春日市独自の企画が必要ではないかという意見や花火の再検討という意見もありました。具体的な企画の案としては、

春日市に馴染みのある有名人・芸能人が登用できないか。

「邪馬台国はどこだ！」というシンポジウムを併せて企画してはどうか。

青森ねぶたには、若者が「跳人」として参加し、ねぶた祭りを形成しているが、このように、静と動を組み合わせることはできないか。

奴国の丘歴史資料館や会場まで、あんどんを並べてはどうか。

など、思い切った企画もありました。

次に、コンセプト（目的、意図、思い等の概念）が必要ではないかという意見がありました。例えば、今年は環境をテーマにしようとか、食をテーマにしようなどです。特に、あんどんと奴国に関するコンセプトが必要ではないかという意見がありました。今回の祭りにおいても、学校等であんどんを作っていて、市民があんどんを作る理由をあまり知られていないということを知りました。ですから、コンセプトを整理・確立させ、事前から時間をかけて市民へのPR等を行い、最後にメインイベントに辿り着くという流れが必要ではないのかという意見もでした。

最後に、コラボレーションについてですが、地区祭りと一体的にできないかとの意見がありました。また、今回は、商工会（商工展祭り）とコラボレーションされていましたが、学校、自衛隊、農協、郵便局、消防など、様々な団体と一緒に、祭りを盛り上げたらどうかという意見もありました。

（５）山口企画室長（春日市民祭り振興会）所感

所感を申し上げる前に、今回、市民の皆さんがせっかく作っていただいたあんどんの点灯ができなかったことをお詫びいたします。

あんどんは、幼稚園の園児さんに約 80 個、小中学校の子ども達に約 500 個、市民の方から約 150 個、振興会で作成したあんどんが約 450 個、会場を照らすあんどんが約 2300 個、合計約 4000 個を準備いたしておりましたが、あんどんの光源はろうそくと電気であり、雨天時に消えたり漏電する恐れがあったため、気象庁の情報等を鑑み、苦渋の選択として今回は中止をさせていただきました。

しかしながら、アート展に応募された方々については、祭りの会場に急遽審査会場を設け、展示をいたしました。一般作品につきましても、12月23日～12月25日の3日間、ふれあい文化センターの正面玄関の階段から芝生のある広場に飾る予定としております。

また、もう終わってしまいましたが、11月11日～13日に行われた大分県日田市の「千年あかり」では、竹で作ったあんどんが花月川河畔に並びますが、そこに春日市のあんどんを貸していただけないかというお話をいただき、花月川の横の酒蔵に春日市のあんどんが100個程が飾られましたのでご紹介します。今回の祭りでは、嬉野のあったか祭りのあんどんも出展する予定としておりまして、繋がりができましたが、他の地域との交流が行われていくというのも、私が考えている構想の一つです。各班の話し合いの中には、長崎のランタンや青森のねぶたという名称が出ていましたが、このようにこうこうたるあんどんではなく、奴国のイメージにふさわしい幻想的で慎ましいあんどんの方が良いのではないかということでスタートいたしております。

祭りの企画運営につきましては、これまで振興会主導で行い、各市民団体に対しては仕事

を分担し部分的にお願いしている状況でした。リニューアルされたあんどん祭りからは、実行委員会を立ち上げおり、市民主体で進めることが、本当の市民祭りではないかと思っています。近隣の市町では自治会や公民館の連合会長が市民祭り振興会の会長をされておられ、この様な形の方が地域に根付いた祭りになっていくのではないかと考えています。

過渡期ということもあり、8月末頃までは『なぜ、花火を辞めたのか。』という電話等の対応に追われ、また、実行委員などに参加協力いただく市民の方も多くは集まっていたけない状況もありました。現在では、新しい祭りを育てていこうという機運も高まり、市民の皆さんから期待をされています。市民の皆さんがそれぞれの思いを、新しいキャンパスに色を塗り、春日市の祭りを描くことができれば、全国的にPRできる祭りが作られていくのではないかと思います。ですから、市民の皆さんで組織した実行委員会が祭りを企画運営することが、大切であると思っています。

その様な中、本日は素晴らしい提案を数多くいただき、実行委員会が行われているかのような懇話会でした。懇話会の会員の皆様には、今後、是非とも、春日奴国あんどん祭りに企画いただきますようよろしくお願いいたします。

3 班から、テーマ・コンセプトが必要ではなかったかというご意見をいただきました。お気づきではなかったかも知れませんが、祭り本来の趣旨とは別に、「春日市の祭りにはゴミ一つない。」ということのスローガンに掲げて取り組みました。ですから、会場にはゴミ箱を設置しません。祭りをを行うからには、子どもたちにも教育環境を教えるべく、育てていきたいと思っています。

最後に、今回の春日奴国あんどん祭りにおいて、どのようなあんどんを作ったらよいか分からないというご意見を多くいただきました。今、各班にそれぞれ立ててある班名の筒もあんどんになります。また、ペットボトルもろうそくや電気を入れれば、立派なあんどんになります。難しく考えず、様々なあんどんが春日市に溢れるようなお祭りになればと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(6) 市長所感

限られた時間ではございましたけれども、熱心にご議論いただきありがとうございました。

あんどん祭りは、奴国という名称が付け加わりました。これからは、奴国をもっとPRできるものになればと思っています。

市では、春日奴国あんどん祭りの1週間前の10月22日から1週間をかけて、奴国の丘フェスタを実施し、会員の野田さんに土笛を作っていただき、子どもたちと演奏していただきました。また、オカリナ奏者の和田名保子さんに演奏していただき、神秘的な一晩でした。なお、当初は奴国の丘歴史公園にステージを組み、屋外で実施する予定でしたが、雨天により急遽、資料館の中での事業実施となりました。

会員からの提案として、奴国の丘フェスタと春日奴国あんどん祭りのコラボレーションをしてはという意見がありました。将来的には、そのようになればと思っていますが、最初から一緒に実施すると、それぞれの祭りの特色がなくなってしまうので、まずは、奴国の丘フェスタの良さを出して、本市が奴国の中心地であったということを、市民の皆さんに知っていただきたいと思っています。

最近、市内の書店に行きましたところ、市報の一部を拡大コピーしたものを広告にして、古田武彦著の邪馬台国と卑弥呼を題材にした本が店頭に並んでいました。内容を見させていただきますと、市内の航空写真や本市から出土した遺物等の写真が掲載されておりました。聞きましたところ、書店に多くの問合せがあり店頭に並べているとのこと。本市はもともと、全国の考古学者が春日市を見ないと奴国・弥生時代のことは分からないという程、貴重な遺跡が出土し、弥生銀座・遺跡銀座とも呼ばれていますが、奴国の丘フェスタは、このことの周知の役割を果たし、書籍という思わぬところに波及したようです。

34年間続いてきた祭りを新しく変えるということは、反発や摩擦が生じてしまいます。出前トークでも、なぜ、花火を辞めたのかというご意見を数多くいただきました。市民祭りというものは、市民の皆さんがお客様ではなく、本来、市民が参画するお祭りではなくてはなりませんので、市民祭り振興会の方々が一生懸命に汗を流して、変えていこうとされておられます。なおかつ、市民祭り新興会の方は、ほとんどがボランティアで仕事をされています。私もその姿を見て、何かできることはないかと思っています。

他に、会員からの意見として、時期についてのご提案もいただきました。8月や12月という具体的な提案もあっていましたが、これは振興会で十分に協議していかれることと思います。

次に、モノマネのお祭りではなく、春日市だけの春日市らしさを出すにはどうしたらよいかという課題に対して、様々なご意見をいただきました。リニューアルしてスタートしたばかりですから、まだまだ、色々なご意見を出していただければと思っています。

ひとつ案として、有名人を登用してはどうかと考えています。実現性は別にして、本市出身である大河ドラマ「竜馬伝」に出演していた蒼井優さんにミス奴国になっていただくと面白いのかなとも思いました。

市民参画の祭りにするために、祭り振興会の山口さんと意見が違うところは、振興会の会長を自治会の会長が兼ねてはどうかというところです。本市は転入転出による住民の入れ替わりが非常に多いという特徴があります。ですから、昔から本市に住んでおられる方も、転入して来られたばかりの新しい住民の方も居られます。そのような方々の誰もが自由に闊達な意見を述べていただく雰囲気が春日市の良さではないかと思っています。ですから、必ずしも自治会連合会の会長でなくとも、この様な形態の方が地域の盛り上がりにつながっていくのではないかと思っています。

最後に、現在は振興会の方が中心となり、祭りの企画運営をされておられますが、是非とも会員の皆様にもご支援を賜りますよう心からお願い申し上げまして、私の所感とさせていただきます。ありがとうございました。

第46回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成24年1月25日(水)
- 2 時間 午後7:00～午後9:00
- 3 会場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員26名〔欠席(4名)〕
春日市長、総務部長、行政管理課長、事務局(行政管理担当)
高齢課統括係長(高齢者支援担当)、社会教育課統括係長(社会教育担当)
子育て支援課長、子育て支援課主事(子育て支援担当)

5 会の内容

(1) 会長あいさつ

(2) 市長あいさつ

(3) グループ懇話

(1月のテーマ『教育と福祉』)

1班 高齢者支援

(班員:〔司会〕小山 雄二、〔発表・記録〕緒方 寛、柿本 人司、軽部 雅子、重 正嘉
東 強志、高野 光雄、松原 至)

高齢者には、支援が必要な方やそうでない方など、様々な状況の方がおられますので、今回は元気な高齢者を中心に懇話を行いました。

行政では、元気な高齢者に対し、いきいきプラザなどで事業をされているが、参加者は同じ顔ぶれのようにも感じるし、このような事業に参加しない高齢者や隣人と関わりがない高齢者を把握しているのだろうかという疑問がありました。その中で、高齢者を元気にする施策にはどのようなものがあるのか、事業に参加しない人に事業や施策の周知徹底を図るには、どのようにしたらよいのかという課題が出されました。

高齢者の把握については、小地域ネットワークづくりという事業があり、自治会や民生委員などが連携協力し、支援が必要な高齢者がいないか、また、その周りに支援する人がいないかの実態を調査し、ネットワークを構築しているとのこと。これは、いい事業であると感じました。

また、最近、現役を引退した方のお話で、たくさん介護保険料を納めてきたのに、行政からは「お元気ですか、お困りありませんか。」の一声もないという話がありました。ですから、支援が必要な方には、ネットワークづくりに取り組んでいますよとか、お知らせを行うことも課題ではないかとの意見もありました。

行政はネットワークづくりを進めていますが、文化協会では組織内の人間関係を基軸に、会をしばらく休むと、大丈夫ですかと本人や家族に連絡しているそうです。ですから、私たちも趣味を持ち、こういったことに参加し、人間関係を作ること、そのネットワークが活用できるので、行政にもそういった団体の周知をしていただければという意見がありました。

元気な高齢者も一括にしないで、例えば、一人暮らしの人はA、少し身体の不自由がでてきた人はB、まだまだ元気な高齢者はCなど、分類を分けて、施策を展開してはどうかという意見がありました。

元気な高齢者には、ウォーキングやトレーニングが効果的で、しかしながら、何もしないと直ぐに身体が衰えてしまうので、楽しく続ける方法がないのかという意見がありました。その中で、100歳を越えても意欲的に様々な活動をされておられる、しいのみ学園の昇地三郎さんのお話を聞けば、効果があるのではというお話もありました。

A に分類した一人暮らしの高齢者は、地域との関わりがない方もおられるので、緊急の課題であり、行政の力を借りて、把握に努める必要があると感じました。

最終的な結論として、我々市民も頑張らないといけないし、市の協力をいただきながら、一緒に頑張っていこうという結論に至りました。

2班 子どもの育成

(班員：〔司会〕田口 誠市、〔発表・記録〕久富 典子、松尾 一昭、井上 池畦子、
篠原 貴美恵、北村 哲、伊藤 信輔、野田 久雄、齋藤 泰英、長野 彰)

子どもの健全育成という視点で、まず、こども会のことについて議論が行われました。その中で、こども会の活動に参加するものはいいけれども、参加しない子どもへの底上げが必要ではないかという意見がありました。また、こども会と育成会の違いがわからないという意見や自治会全体で子どもを育てるという方法の方が、単純でよいのではないかという意見がありました。しかし、こども会や育成会に係っている者からしますと、全員加入制や予算の問題等、課題が多いという話でした。

こども会と育成会が別物だという認識を新たにし、議論を進めていきました。こども会は、子ども達が、自分達のために主体的に活動することが、求めている姿ではあるけれども、育成会の手が入ることによって、育成会や親が手助けできる範囲での活動になっていることが課題であるという意見がありました。しかしながら、そのことは、20年も前から同じ状況だよというお話もありました。

こども会、育成会、いや自治会でという組織の話ではなく、組織の枠を超えて、地域全体でサポートするという意識でやっていくしかなく、その地域毎で、手法は様々ではないのかというところに落ち着きました。

その中で、地域の子どもと大人が係わる最たる表現方法は、あいさつではないかという意見があり、過去一週間に地域や近所の子どもにどれくらい声をかけましたかという問いかけがありました。皆さんもそうだと思いますが、あまりしていないと言うのが、実際のところかと思います。

安全、防犯についても、大人が声をかけ続けることで、犯罪の抑止にも繋がっていくとも考えられるので、結論として、子どもに係わる意識を持ち続けることが、最も身近で、最も効果のあることではないかという認識を共有することができました。

今日、この会場には、約30名の方がおられますので、皆さんが、明日から地域の子ども5名に声をかけるだけで、150名の子どもが地域や大人と係わりを持つことになりますので、小さな1歩ですけれども、怪しまれない程度で声をかけていただければと思います。

3班 子育て支援

(班員：〔司会〕今村 太陽、〔発表・記録〕神代 俊史、梅崎 孝彦、前園 敦子、

中川 紀美代、吉田 紀美、谷 恵美子、坂本 鴻)

内容については、子どもの健全育成と重なるところがあると思います。

まず、子育て支援課から、子育て支援センターの活動内容についての説明がありました。

また、春日市の子育て環境は、昔に比べると非常によくなっているという意見が多くありましたが、現在は、男女共同参画が推進され、共働きの家庭が主流となるなど、環境の変化に伴い、支援のあり方も変わってきているという状況があるようです。その中で、ファミリーサポートセンターという事業で、有償ボランティアとして支援員を派遣する制度があるようですが、若干利用料金が低いという意見もいただきました。

子育て支援センターは、児童虐待の相談窓口にもなっているとのことで、県の児童相談所以外に、市でも相談を受けていることを知りました。しかしながら、少ない職員で全体をカバーすることは難しく、関係機関との連携や地域での見守りが大切であるというお話をいただきました。

市では、防犯という観点で、見守り活動をする方の「ついで隊」という制度があります。地域で子どもを見守り支援していくという観点から、会員の皆さんも「ついで隊」に入会いただき、ついで隊のワッペンをつけて、見守り活動に協力いただきたいというまとめになりました。

【事務局】

ついで隊については、次回の懇話会で登録方法等をご紹介します。

(4) 市長所感

本日も熱心に論議いただきありがとうございました。各班のご意見をお聴きし、なるほどと感じたというのが、率直な意見です。

高齢者支援では、いきいきプラザの活用について、同じ顔ぶれの人が利用していないだろうかというご意見をいただきました。市報などを通じてお知らせをしていますが、関心のないものは、興味を示していただけないというのが現状であり、市民の皆様への周知方法というのは、課題として認識しています。

東日本大震災、あるいはその前の福岡西方沖地震や阪神淡路大震災などの経験から、災害弱者の安否確認などを目的とした要援護者台帳の作成を進めておりますけれども、個人情報保護法という法律ができて以降、行政であれ家族構成などの情報は教えたくないという人が増えてきました。また、80歳以上の高齢者に祝い金をお渡しする事業があり、自治会にこの祝い金の配付をお願いしているのですが、「なぜ、私の年齢を知っているのか。」と言われる方もおられます。きめ細かな行政サービスが必要な分野はありますが、地域でできること、家族でできることまで行政サービスで行うと、膨大な人とお金が必要となります。ですから、福祉の分野で言えば、社会福祉協議会や民生委員、自治会の方々の連携をしながら、支援の輪を広げており、これが地域福祉であります。

各班の意見をお聴きしますと、会員の皆様などは、熱心に子どもや高齢者、地域のことを考えていただき大変感謝しておりますが、行政の大きな課題、問題となっているものは、いくら呼び掛けても、感心を示していただけない方に、どうしたら答えていただけるかという

ことです。

マザーテレサの有名な言葉に、『愛の反対側にあるものは、憎しみや戦争ではなく、無関心である。』というものがあります。この言葉は、行政が抱えている様々な課題に通じるものがあります。

本市では、PTA活動やコミュニティスクールなど、全国でも高い評価をいただくほど、熱心に取り組んでいただいております。その他にも、別の分野でボランティアなどの取組をされておられますけれども、これらに、関心を示さない方が結構おられます。ボランティアをしたいという方は、市や社会福祉協議会にご連絡いただければ、その調整をさせていただくのですが、したいと思われている方と実際にされる方の差は、大きいようです。

登下校時の子どもの見守りを、老人クラブや保護者の方でしていただいておりますが、まったく参加されない保護者もおられます。

一方、過保護にされる方も多くなっているように感じます。市内のある幼稚園では、園児に50mの全力疾走や逆立ちをさせています。当初は、保護者が顔色を変えて、「うちの子にそんなことさせないでください。」という反発が随分あったそうです。けれども、2年、3年と続けることで、ほとんどの園児が逆立ち歩きを出来るようになり、毎年、それを見せていただいております。また、200mトラックのカーブに沿っての全力疾走もできるのですが、小学校の運動会では、直線しか走らせないそうです。そうしているうちに、逆立ちも200mトラックを走ることも出来なくなってしまうそうです。

何かあったら大変だという事故のことを心配するあまり、可能性を摘んでいるということもあります。

本日は、どの班とも無関心層への呼びかけをどうするかという、我々が抱える大きな問題に通じる部分の意見があり、どのようなまとめとしてよいものか、頭を抱えました。しかしながら、行政がこの問題に対して、手を抜くわけにはいきません。ですから、市民の皆様方が、好きなことからでよいので、興味を持って参画していただく、そういう機会、受け皿をどのように作っていくかが解決すべき課題であろうと認識しています。

本市は、今、九州で一番住みやすい町という評価をいただいておりますけれども、もっともっと住み良いまちにしていきたいと考えておりますので、「市長、その考えは違いますか。」という声がありましたら、遠慮なくお聞かせいただければと思っております。

本日は、どうもありがとうございました。

(5) 閉会

第47回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成24年3月21日(水)
- 2 時間 午後7:00～午後9:00
- 3 会場 春日市奴国の丘歴史資料館
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員17名〔欠席(13名)〕
春日市長、総務部長、行政管理課長、事務局(行政管理担当)
文化財課長、文化財課統括係長

5 会の内容

(1) 会長あいさつ

(2) 展示室とバックヤードの見学及び春日市の文化財の説明(文化財課：中村統括係長)

さて、皆さんは春日市の市章をご存知でしょうか。意外と知られていないことが多いのですが、春日市は弥生銀座と呼ばれるほど、弥生時代の遺物が数多く出土していますので、この市章は、春日市の春の文字と弥生時代に亡くなった人を埋葬するために使用した「かめ棺」を図案化したものです。それでは、奴国の丘歴史資料館の展示室とバックヤードの見学を行います。

展示室とバックヤードの見学

発掘調査を活用することが文化財課の役割ですが、発掘調査の報告書は学術報告を兼ねているため、市民の皆さんには読みづらい内容です。一般の書籍となっているものもありますが、これも難しい内容のものが多いです。

このような中、我々は、市民の皆さんに分かりやすく関心を持っていただけるよう事業を展開しています。

例えば、奴国王の出現と北部九州の国々というテーマで、奴国をクローズアップした企画展なども開催していますが、繰り返しPRしていくことが大切だと思います。また、幅広い年齢層に知っていただく取組として、子どもたちを対象にした歴史クラブなどの事業に過去取組んだことがあります。平成24年度は、この事業を復活させようと考えています。

遺跡というものは、尋ねて見るのが大切です。市では、歴史散歩という事業も行っており、市内各遺跡の散策やバスを使って奴国に関連する遺跡を尋ねる事業も行っています。また、ドラマで平清盛が放映されているので、清盛にゆかりのある地域にバス見学で尋ねることも予定しています。もうひとつ体験学習が有効な方策と考えており、青銅器技術を体験していただく取組も行っています。

それでも、歴史には硬いイメージがあるようで、もっと身近に感じていただくため、図書館との共同事業として、図書館の中に小さな土人形を展示しています。図書館の書籍の中には、奴国コーナーというものもありますので、そこへ繋がるように、また、そこから奴国の丘歴史資料館にも来ていただけたらと思っています。

様々な機会を通して、今まで興味を持っていなかった方に興味を持っていただく取組を実施していますが、皆さんのお知恵もお借りしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

(3) 市長あいさつ

(4) グループ懇話(3月のテーマ『市の文化財を活かすには』)

1班 (班員:[司会・発表・記録] 今村 太陽、軽部 雅子、梅崎 孝彦、古川 美穂子、
柿本 人司)

1班では、この奴国の丘歴史資料館をもっと市民の皆さんに活用していただくための方策について、懇話を行いました。1つの策として、歴史を説明する上での表現には、100年前、1000年前という表現がありますが、イメージが付きにくいと思うので、他の国の有名な歴史と比較して説明すると非常に分かりやすいのではないかという意見がありました。

次代を担う子どもたちに歴史を伝える方策としては、子どもは漫画が好きなので歴史漫画を作ってはどうかという意見がありました。また、体験を活用して興味を持たせてはとの意見がありました。例えば、弥生時代の衣装が着れたり、かめ棺に入れる体験、昔の家に住む体験などをさせてもらえると、非常に勉強になるのではないかという意見がありました。

また、経験豊富な年長者の方に、歴史の説明などをいろいろな視点からしてもらえればよいのではという意見やテレビゲームなどをする子どもが多いので、映像を使った説明は興味が湧くのではないかという意見がありました。

最後に、私を含めて若い世代というのは、どうしても「限定」という言葉に弱いので、普段見られないバックヤードを見学できたことは、とても興味を引かれました。こういった取組も取り入れていただきたいと感じました。

2班 (班員:[司会] 田口 誠市、[発表・記録] 吉田 紀美、伊藤 信輔、松原 至、
松尾 一昭)

限られた時間の中での議論で、意見としてまとめることはできませんでしたので、個人個人の意見を紹介したいと思います。

まず、展示物は内容が専門的で難しかったという意見、創造していたものより奴国の丘歴史資料館が立派でありもっと市民の方に活用していただきたいという意見、小中学生に活用してもらうため校外学習等で利用してもらってはどうかという意見がありました。

また、立派な施設であるのに、活用されていないのはPR不足ではないかという意見もあり、一人一人が周りの人に施設の良さと伝えて広げていくことが大切ではないかという意見や吉野ヶ里遺跡のように大きく宣伝してはどうかという意見もありました。

他に、今日の見学で壮大なロマンを感じ、子どもたちにこのことを伝えていくのが、私たちの義務であろうという意見もありました。

私自身の意見として、今日の見学や説明は、とてもわくわくさせられました。特に、石ころや泥が遺物として復元される模様を見学できたバックヤードは、教科書で見たことがあるような展示室の遺物よりも興味をそそられました。北海道の旭山動物園のように、現場を見せることが一番大切なのだと感じました。

最後に、吉野ヶ里遺跡など近隣や関連の遺跡と歴史サミットをしてはどうかという意見もありました。こういった提案も参考に検討いただければと思います。

3 班 （班員：〔司会・発表・記録〕久富 典子、重 正嘉、野田 久雄、高野 光雄
中川 紀美代、谷 恵美子、井上 池畦子）

1、2 班と重なる意見もあると思いますが、意見を紹介します。

まず、弥生時代、なぜ奴国の丘がここにあったのか、地理的条件や設立の過程が分かればもっと感情移入ができるので、それを説明したマップを作ってはどうかという意見がありました。次に、ふれあい文化センターに展示していたとのことですが、奴国の丘歴史資料館と繋げる取組が必要ではという意見がありました。また、以前、会員の方が岡本山の一本松を目指して船が寄ってきていたという話を先輩から聞かされたという話をしてくださいましたが、このように身近な逸話として、奴国の中心地が春日にあった話をしてくださる方がいれば、学術報告とは違い聞きやすいのではという意見がありました。

中学校の教科書に、須玖式文化、須玖式土器が紹介されており、今でも記憶に残っているので、こういったインパクトのある紹介ができればという意見もありました。

初めて奴国の丘歴史資料館に来たという方からは、こんなに立派とは思わなかったという意見と PR 不足でありもっと宣伝が必要だとの意見がありました。その方策として、コミュニティバスやよいを活用して、遺跡巡りツアーをしてはという意見がありました。

根本的に市役所がする事業は面白くないというイメージを持たれてしまう傾向にあるので、行政の主体的事業の色合いを薄め、民間のバスツアーに組み込んでもらうなどすると、よい効果が生まれるのではないかとという意見がありました。

行政では、以前、奴国伝説というミュージカルをされたこともあと聞いています。こういったイベントと絡めて奴国を紹介する方法もいいのではないかと思います。しかしながら、弥生時代の服やかすが君・あすかちゃんの着ぐるみを現有しているのは、行政とは別の団体であるらしく、イベントを盛り上げることができていないのかなと思います。また、本日は勾玉や土笛の作成体験をされておられる会員の方に、その紹介をしていただきましたが、こういったものの PR も必要だと思います。

最後に、バックヤードで遺物を組み立てている人のお話を聞くとか、レプリカの遺物を壊して組み立てさせるということも、子どもには面白いのではないかとという意見がありました。

（５）市長所感

本日も貴重なご意見をいただきありがとうございます。どのご意見ももっともであると感じました。

まず、1 班から歴史漫画の提案がありました。随分前に一度作ったことがあります。これを見た子どもたちも大人になっていますので、ひとつの方法と思います。

学校の校外学習としても小学校中学年が昔の道具を学ぶ総合学習として、また、高学年が社会科の授業として弥生時代の歴史を学ぶために、奴国の丘歴史資料館を訪れていますが、皆さんに認知されていませんので、もっと力を入れなければならないと思います。

奴国を生かした郷土愛を育む取組として、昨年から奴国フェスタをはじめました。会員の野田さんにも尽力をいただき、子どもたちと土笛を演奏していただくとともに、オカリナ奏者の和田奈保子さんに演奏をいただき、幻想的な時間を過ごすことができました。当日は大雨で、野外ステージが使えなくなり、急きょ資料館での実施となりましたが、皆さん最後までお帰り

にならない状況でした。また、話にありました弥生時代の服もフェスタで活用しましたが、これは青少年育成市民会議の持ち物だそうで、こういったものに市も力を入れ、誰でも借りられるようにしても良いのではないかと考えています。

次に、2 班からは、時間が足りなかったという意見もありましたが、それくらい伝えたことがたくさんあるということを楽しんでいます。学校での活用も十分に浸透していないようですから、子どもたちが自分のまちに興味を持ち郷土愛を育むということに、力を入れていかなければと思います。

歴史サミットという提案もいただき面白い取組だと思います。以前は、全国の春日という名前のついた市町村が6つあったことから、この6つの市町村で春日サミットを行っていましたが、市町村合併で春日井市と春日市だけになってしまいましたので、現在はサミットを行っていません。また、糸島や飯塚の遺跡と結んで古代人がたどった道として、連携した事業を行ったことがあります。こういったものも何か取組ができればと思います。

3 班の久富さんからは、須玖式土器のお話もありました。確かに中学校の教科書に載っていましたが、こういったものも生かしきれていないので、本当に PR 不足だと思います。

吉野ヶ里遺跡との比較もありましたが、本市でこういった PR ができないのは、既に都市化が進行し、住宅が建ち並んでいますので、全ての住人に立ち退いてくださいとは言うのは困難な状況です。岡本には奴国の王墓があり、現在、地権者のご理解のもとその場所の買収を進めているところですが、王墓の跡地として紹介できるものにしたいと思っています。

宣伝が足りないというのが根本にあります。昨年から奴国フェスタという事業を始めてはいますが、こういった取組を通じて、歴史や文化を子どもたちや住民の皆さまに知っていただき、それを誇りに思っていたきたいと思っています。平成 24 年度の奴国フェスタも職員が知恵を出し、よい事業にしてくれると思いますので、皆様方にもご協力をお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。

(6) 閉会

第48回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成24年5月17日(木)
- 2 時間 午後7:00～午後9:00
- 3 会場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員25名〔欠席(5名)〕
春日市長、行政管理課長、事務局(企画担当)

5 会の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) グループ懇話

(5月のテーマ『懇話会のあり方について』)

1 班

(班員：〔司会〕東 強志、〔発表・記録〕神代 俊史、伊藤 信輔、坂本 鴻、松尾 一昭
北村 哲、軽部 雅子、)

まず、懇話会で一つの結論をまとめることが必要ではないかという意見がありましたが、この懇話会は結論を求めるものではなく、それぞれの意見を出し、井上市長や担当職員の方に聞いていただき、市政に反映していただくものなので、現状の進め方でいいのではないかとということでまとまりました。

しかし、7期と8期と年数を重ねていく中で、懇話会のステップアップが必要ではないかという意見がありました。約1時間という懇話時間では、時間が足りないので、各会員が事前に勉強して懇話会に臨むべきではないかという意見があり、そのためには、行政からテーマに関連する事前の資料などを、配布していただけないかという意見がありました。

また、懇話会で行われた議論がどのように市政に反映され、成果が上がっているのかが分からないため、不満が残るという意見がありました。

テーマ設定に関して、過去に1つのテーマを2回続けて話し合ったことがあったとのこと、テーマの内容によっては、複数回続けて同じテーマを懇話してもよいのではという意見がありました。また、テーマを会員で話し合って決めています、行政から投げかけていただくということもあっていいのではないかと思います。

2 班

(班員：〔司会〕緒方 寛、〔発表・記録〕井上 池畦子、梅崎 孝彦、齋藤 泰英、
古川 美穂子、谷 恵美子、中川 紀美代、小山 雄二、篠原 貴美恵)

私たちの班では、付箋紙に皆さんの意見をまとめ、募集のあり方、市民参画意識のPR、懇話会の存在周知などについて意見がありました。

募集について、様々な意見がありましたが、自治会や学校、市民会議などの方々に、懇話会を見学にきていただいてはどうか、懇話会の活動を理解いただけたら、市民の方々や自治会の方々も何か感じていただけるのではないかと意見がありました。

また、コミュニティ・スクールが全国的に知られつつありますので、学校関係者にも懇話

会の取組を知っていただきたいという意見がありました。また、市民会議などと意見交換をしてはどうかという意見もありました。

懇話会のテーマについて、話し合いの中で個人的な意見が出て、まとめができないという反省があり、テーマを絞って連続して討議する方法を検討しても良いのではないかと意見や、各班とも同一テーマで討論してもいいのではという意見がありました。

また、図書館や奴国の丘歴史資料館に行って懇話会を行いましたけれども、現場で職員の方の話を聞くことで、知らないことを知る良い機会になりましたが、現場に対する改善意見を伝える場が必要ではないかと感じました。

懇話会は、意見を言う場、行政は聞く場という中途半端な立場であるという意見があり、懇話会で出た意見をどのように生かされたのか行政側も伝えて欲しい、出前トークのように回答が欲しいという意見がありました。話し合いの内容は記録だけされ、記録で終わっているのではないかと意見がありました。

それと、あんどん祭りが平成23年度から市民主体の祭りとして変わりましたが、この市民懇話会の意見を生かして、アイデアを出していただければという意見もありました。

最後に、春日市役所の隣に、警察署ができるということです、警察に対して要望を伝える場所であるとか、防犯をテーマに入れて欲しいという意見がありました。

3 班

(班員 :〔司会〕今村 太陽、〔発表・記録〕久富 典子、野田 久雄、重 正嘉、高野 光雄
松原 至、吉田 紀美、田口 誠市、柿本 人司)

1 班と2 班の意見と重なるところが多いですが、やはり、意見を伝えるだけではなく、意見がどのように生かされたのかのフィードバックがほしいという意見がありました。例えば、市報に会員からの提言と行政の回答を載せていただくなどの方法が、できないだろうかとの案もありました。

テーマに関して、3 年程前には会の初回で決めていたそうですが、時間がもったいないということで、あらかじめ決めていくという方法にし、皆さんのアンケートから決めさせていただきましたが、テーマが広くなりすぎたところもあり、統一感がなかったという意見もありました。私はテーマを決める側にも入りましたので、アンケートだけでなく、例えば、市が求めているもの、その時々 of 聞きたいテーマなどにした場合に、どうか尋ねたところ、自分が希望したテーマ以外でも熱心に参加しますという心強い意見をいただきました。

次に、参加する年齢層について、若干偏りがあるのが問題ではないかという意見がありました。やはり、幅広い年代の方が参加されると、様々な視点からの発想、意見が出るのではないかと意見がありました。

グループ編成や討議方法について、現行の3 班に分けず全体で話し合うと時間が足りない、グループで出た意見を討議し合うという形式も盛り上がるのではないかと意見がありました。このように盛り上がれば、達成感もあるという意見がありました。また、全6 回のうち1 回が自己紹介などで終わってしまうので、臨時会のようなものを設けてはどうかという意見がありました。

最後に、実地見学は、普段見ることができない場所も見ることができ、楽しい印象を受け

たので、自衛隊基地や南部工場クリーンセンターを見学してみたいという意見がありました。

(4) 市長所感

本日は、本当に耳が痛い御意見ばかりで、私どもが懸念していたことが多くありました。

このかすが市民懇話会で皆さんからいただいた貴重な意見とその後の経過を、取り上げる機会が今までどれだけあったかと、反省させられたところです。

各班の発表で多くの提案をいただきましたけれども、まず、現在の3班編成での良さと、全体やグループ間での討議も必要ではないかと感じました。皆さんの意見もお伺いしながら、是非、やらせていただきたいと思います。

また、1時間程度の懇話時間では、議論を深めることが難しいという意見がありました。このため、事前の資料等をいただけないかとの御意見でしたので、積極的に提供していきたいと思います。出前トークでは、本市が今年実施する主な事業を分かりやすくまとめたものをお配りしています。例えば、市債（借金）残高の推移や全国でも高い評価を受けているコミュニティ・スクールの取組などについてです。

また、募集の段階から参画意識を高めていけないのかという御意見もいただきました。話の中身は異なりますが、著名人をお呼びしての講演会などを企画し、現会員や既に会員として卒業された方、そのお知り合いや他の一般の方にも参加いただければ、参画意識の向上に繋がるのではないかと思います。

警察、防犯に関する懇話をしてはどうかとの御意見もいただきました。警察も御協力いただけたと思いますので、これも現会員だけでなく、広く多くの方に参加いただくものとして、企画してもよいのではないかと思います。

PRの話もありましたけれども、もっと市報等を活用していきたいと考えています。

テーマがまとまらないというお話もありましたが、会員の方には様々な分野で活躍されておられる方がいますので、いろんな分野の話になってしまうこともあると思います。

また、すべての班から御意見がありました、『懇話会の意見がどのように生かされているのか。』ということにつきましては、目に見える形にしていきたいと思います。

施設や現場を見ながらの懇話会につきましては、具体的に自衛隊基地や焼却場などの案をいただきました。これに加え、リサイクルプラザは、こんなものまで捨てられるのかと思われるものまで捨てられ、また、使えなくなった自転車を組み立て直して使えるようにし、利用したい方に抽選でお渡ししていますので、こういったものも見ていただきたいと思います。

本日は、耳の痛い話が多くありましたが、私どももそれに向けて取り組んでまいりますので、また、多くの御意見をいただきたいと思います。ありがとうございました。

(5) 感謝状贈呈と記念撮影

(6) 閉会



かすが市民懇話会の意見集約

(第 4 4 回 ~ 第 4 8 回)

第44回 『防災（災害に対する備え）について』

1 班 『自分ができること(自助)』

- ・ 日頃から避難場所や避難経路を家族と話し合う
- ・ 自分自身で家から避難場所まで行き確認する
- ・ 自治会の広報誌等を活用した地域との繋がり
- ・ 日頃からカバンに水を入れて備えておく
- ・ 食料の備蓄や台風の際に雨戸を閉めるなどの対策をする
- ・ 浸水ハザードマップを自分の住んでいる地域だけでも拡大しておく

2 班 『地域ができること(共助)』

- ・ 市（行政）が地域に防災訓練を促す
- ・ 20 所帯くらいの小規模なごとに防災リーダーを作り、防災意識を広める
- ・ 防災に対する意識を十分に認識し、地域で広め、防災活動を活性化させる

3 班 『行政にしてほしいこと(公助)』

- ・ 災害発生後に、自身が無事か、助けてほしいのかの目印をつくる
- ・ 周知徹底や防災訓練に参加を促す

第45回 『春日奴国あんどん祭りについて～新しい祭りの感想、もっと魅力ある祭りにするための提案など～』

（各班の意見）

- ・ 奴国を全面に出して、祭りの名称を「奴国祭り」にする。
- ・ 奴国時代の衣装を着て、市中を歩く。
- ・ 山車を学校や自治会ごとに作る。
- ・ 雨などの天候に左右されない方策を考える。
（例えば、ふれあい文化センターをメイン会場にする。）
- ・ あんどんを灯すことの趣旨が、市民や特に子どもたちに周知・認識されていない。
- ・ 奴国の丘フェスタと春日奴国あんどん祭りの時期を分散せずに集中させる。
- ・ 多くの市民、すべての年代の人、が参加できる祭りとする。
- ・ 開催時期を、祭りのシーズンの8月、もしくは、クリスマス時期の12月にする。
- ・ 春日市に馴染みのある有名人・芸能人が登用する。
- ・ 「邪馬台国はどこだ！」というシンポジウムを併せて企画する。
- ・ 奴国の丘歴史資料館や会場まで、あんどんを並べる。
- ・ 祭りのコンセプト（目的、意図、思い等の概念）を整理し、確立させる。
- ・ 地区祭りと一体的にするなど、様々なものとのコラボレーション

第46回 『教育と福祉』

1 班 『高齢者支援』

- ・いきいきプラザなどで事業に参加しない人に、その周知徹底を図る。
- ・元気な高齢者もひとくくりにせず、一人暮らしの人は A、少し身体の不自由がでてきた人は B、まだまだ元気な高齢者は C など、分類を分けて、施策を展開する。
- ・地域との関わりがない方もおられるので、行政の力を借りて把握に努める。

2 班 『子どもの育成』

- ・こども会の活動に参加する人はいいが、参加しない子どもへの底上げが必要。
- ・地域の子どもと大人が係わる最たる表現方法は、あいさつであるから積極的に声かけをする。
- ・子どもに係わる意識を持ち続ける。

3 班 『子育て支援』

- ・地域で子どもを見守り支援していくという観点から、「ついで隊」に入会する。
- ・男女共同参画が推進され、共働きの家庭が主流となるなど、環境の変化に伴い、支援のあり方も変化している。

第47回 『市の文化財を活かすには』

(各班の意見)

- ・歴史を説明する際、100 年前、1000 年前という表現をせず、他の国の有名な歴史と比較して説明する。
- ・子どもは漫画が好きなので歴史漫画を作る。
- ・体験を活用して興味を持たせる。(例えば、弥生時代の衣装が着れたり、かめ棺に入れる体験、昔の家に住む体験など。)
- ・奴国の丘歴史資料館は、立派な施設であるから、PRをもっと行う。
- ・吉野ヶ里遺跡など近隣や関連の遺跡と歴史サミットを行う。
- ・なぜ、春日市に弥生時代の奴国があったのか、地理的条件や設立の過程が分かればもっと感情移入ができる。
- ・身近な逸話として、奴国の中心地が春日にあった話をする。
- ・コミュニティバスやよいを活用した遺跡巡りツアーを行う。
- ・他のイベントと絡めて奴国を紹介する

第48回 『懇話会のあり方について』

(各班の意見)

- ・ 懇話会で一つの結論をまとめる
- ・ 懇話会は、年数を重ねており、マンネリ化せずステップアップが必要。
- ・ 各会員が事前に勉強して懇話会に臨む。そのために、行政からテーマに関連する事前の資料などを配布する。
- ・ 懇話会で行われた議論がどのように市政に反映され、成果が上がっているのかが分からない。
- ・ テーマの内容によっては、複数回続けて同じテーマを懇話する。
- ・ 地域や学校などに、懇話会を見学に来ていただき、活動を理解していただく。
- ・ 各班とも同一テーマで討論する。
- ・ 懇話会で出た意見をどのように生かされたのか伝えて欲しい。
- ・ 出前トークのように回答が欲しい。
- ・ 春日市役所の隣に、警察署ができるとのことで、警察に対して要望を伝える場や、テーマに防犯を入れて欲しい。
- ・ テーマが広すぎて、懇話に統一感がなかった。
- ・ タイムリーな話題、市が求めているものをテーマとする。
- ・ 参加する年齢層に、偏りがある。幅広い年代の方が参加されると、様々な視点からの発想、意見が出る。
- ・ グループで出た意見を討議し合う。
- ・ 懇話会で、自衛隊基地や焼却場を見学する。



かすが市民懇話会 模様

第44回から第48回



4 懇話会の様子(写真)

第 44 回(9月) ~ 防災について ~



宮城県の気仙沼市に、復旧支援派遣した
道路防災課の主任から活動報告がありました。

第 45 回(11月) ~ 春日奴国あんどん祭りについて ~

春日市民祭り振興会の山
口企画室長に、来ていた
だき、直接ご意見を聞いて
いただきました。



第 46 回(1 月) ～ 教育と福祉 ～



幅広い分野でのテーマでしたが、各所管の職員に参加いただき、活発な議論が行われました。

第 47 回(3 月) ～ 市の文化財を生かすには ～

幅広い分野でのテーマでしたが、各所管の職員に参加いただき、活発な議論が行われました。



(バックヤードの見学)



(展示室の見学)

第 48 回(5 月) ~ 懇話会のあり方について ~

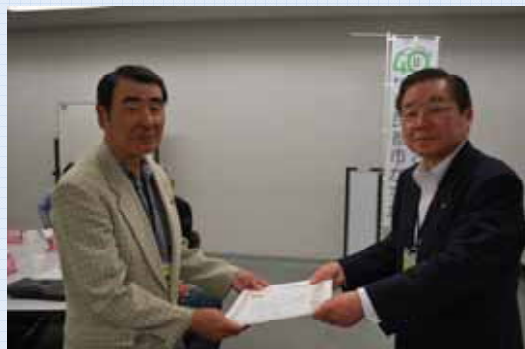


様々な手法で、活発な議論が行われました。

井上市長も毎回、参加しています。



感謝状の贈呈式



井上市長から感謝状をいただきました。

かすが市民懇話会
第7期会員からの
メッセージ

2年間を振り返って

私が「市民懇話会」に参加したきっかけは、ある方から「こういう会があるから応募してみないか？」という単純な誘いがあったからです。

以来2期4年間、市民懇話会のメンバーとして、毎回参加させて頂きましたが、私にとって非常に有意義な、充実した4年間だったと思っています。

この私の経験を基に、メンバーを公募しても中々メンバーが集まらなく、担当者が非常に苦勞されている事を知り、この2年間、新メンバーの紹介をさせて頂きました。これは、市民懇話会の存在そのものをPRし、1人でも多くの市民が春日市について考えてもらえればと思ったからです。

残留するメンバーの方、また、卒業されたメンバーの方も市民懇話会の存在PRという面で、新進気鋭の新メンバーを、是非、紹介頂きたいと思います。

口込みのPRが一番有効なPRと思っています。

この2年間を振り返りますと、毎回異なったテーマに沿って懇話し、メンバーからの色々な意見、アイデアを拝聴し、私にとって非常に勉強になり、貴重な体験でした。この懇話内容について、春日市長はじめ、市の行政職の方に熱心に聞いて頂き、最後に、市長所感として、懇話内容と市の現状、実行可否のジレンマ等をお聞きできたことは、非常に有意義だったと思っています。

ただ、最後の反省会でも出た意見ですが、今後の市民懇話会のあり方として、懇話内容の中で、「この件は、市としてこのように処置した。」との結果通知が欲しいと言うのが各メンバーの希望でもありますので、処置・処理に時間のかかる案件もあり、その整理、把握に困難な面もありますが、是非実現して頂きたいと思います。

今後は、メンバーをはずれても、春日市のお役に立つことがあれば、喜んでお役に立ちたいと思いますので、気軽に声をおかけください。

最後に、行政管理課の皆様には、この2年間大変お世話になったことに感謝申し上げますとともに、8期、9期のメンバーの方々のご活躍、市民懇話会のご発展を祈念し、「2年間を振り返って」の感想とさせていただきます。

2年間を振り返って

第7期（平成22年7月1日～24年6月30日）2年間の中で、国の政権交代があり、3月11日の東北大震災があり、地方の力が問われる期間に携わり考えさせられる事がたくさんありました。

私たちは懇話会で多くのテーマについて、毎回出席の市長、行政管理課の職員の

方々の講話を受けながら、討論、議論してきました。

回毎、意見の報告書として提言の一部になっていることと思います。

私達も言いつばなしではなく、自ら取り組んだり改善できる部分は、手をつければと感じているところです。

地域づくりは人づくりと強く感じました。

メンバーの方々、市長、担当者の方々、お世話になりました。

心より感謝しています。ありがとうございました。

梅崎 孝彦

2年間で振り返って

第5期会員に引き続き第7期会員として延4年間にわたり、「かすが市民懇話会」の一員として、市長を始め関係各部署の職員の皆さんと気軽に話のできる機会をいただき、ありがとうございました。

職員の皆様には夜遅くにもかかわらず、行政施策全般にわたり丁寧な対応をしていただき、春日市に転入して5年目の新米市民にも「かすが市民懇話会」での討論を経て市の全体像がはっきりしてきたように思います。

会員の皆様と文化歴史をはじめ、地域活動、防犯活動、福祉施策等々様々なテーマでの話し合いがあり、沢山の事を学ぶことが出来ました。

自治会活動をした経験から、春日市の自治会の運営に興味があり、グループ討議では、自治会活動に関係する議題に積極的に参加してみました。

新市街地の自治会には若い方も多く積極的に参加し住みよい環境作りに努力されていまして、役員も熱心に活動をされている様子が伝わってきました。

旧市街地には高齢者世帯も多く、自治会活動への参加には消極的であり役員の努力にもかかわらず改革はなかなか進みません。

各地域での活動事例をお聞きし、地域の皆さんが積極的に参加し、活発な活動が行われている自治会、住民の関心も少なく非常に消極的な自治会と大きな差があることも分かりました。

自治会運営の改編が行われ新しい自治会活動がスタートして3年を経過しました。

旧市街地にも新しい若い住民が増えてきております。老若男女を問わず近隣者との意思疎通を図り、積極的に自治会活動に参加する努力をすべきと思います。

「かすが市民懇話会」2期4年間の経験を踏まえ、春日市が益々発展をするよう地域活動に取り組んでみたいと思っています。

行政管理課の皆様も大半の方が異動で交代されました。新しい体制での「市民懇話会」がより多くの市民に認知され発展することを期待しています。

大変お世話になりました。これからも市役所でお会いすることがあると思いますので、今後ともよろしくお願いします。

柿本 人司

2年間を振り返って

7期会員として2年間 その前の5期会員として2年間 合わせて4年間懇話会会員として出席させていただきました。

昨年、東日本大震災の発生が、この国の社会システムを大きく変えようとしている昨今、懇話会でも防災をテーマに討論ができましたことは、会員の皆様の意識の変化に役だっていることと思います。

改めて自助・共助・公助について考えさせられ、『自助に「想定外」はない』『そして共助・公助も自ら大切にしなければならない』と再認識いたしております。

毎回言いたい放題の内容を記録・発表して頂き（私も何回か発表したかな？）、職員の方々にはその内容をまとめて頂きました。少しはお役にたっているのでしょうか。私たち会員のほうは勉強になり、貴重な体験ができました。

懇話会の役員・メンバーの方々、市長をはじめとする歴代職員の方々、お世話になりました。心より御礼申し上げます。

齋藤 泰英

2年間を振り返って

2期4年間で、皆様方と懇話会を通じて対話の時間をいただいたことに感謝を申し上げます。その中で、年間テーマ「まちづくりと人づくりの春日市を目指して」の課題に取り組んできました。懇話会の目的及び行政と膝を交える意味を感じております。

私の私案ですが、新聞紙上でも取り上げられた春日市のコミュニティ・スクールにヒントの一端を感じています。この学校をまちづくりに置き換え、課題に対して何が市民に出来るのか、どこまでやるものか、どの範囲の人が納得すれば成立するのか、また行政の仕組みと援助の関わりはどうかには常に曖昧さがあり、また「まちづくり」は生活と社会と密接な関係から線引きが難しいのが現状です。

そこで、市民や地域が行政の活動に一定の責任を持って参加すること、活動の支えとして行政は何がしたいのか、市民は地域に何を望み何が出来るのかなど、懇話会や会合を開いて意思疎通を図って市民、地域、行政が一体で取り組むことで互いの信頼が生まれ、各自の気づき・守り、良いまちへと改善していこうとする気持ち（参加・

提案・交流）が生まれます。行政のビジョン示しからプラン～アクションへと向かうのが、市民参加のボトムアップ形式の本意であり、本来の姿かと思われます。

最後に、今後への提案として会員の年齢構成や、一つのテーマでの時間的制約の解決策、市民懇話会の市政への反映、懇話会の市民への周知等に次なる期待を込めております。

これから 8 期生と 9 期生と新しい行政管理課スタッフに期待しています。

これまで 4 年間いろいろな関係者の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

坂本 鴻

2 年間を振り返って

わがまち、春日の市政を知るキーポイントは、行政トップの市長その人をよく知ること、その機会は懇話会にあると考え応募して 2 年経ちました。所期の目的は十分に達成できたと満足しています。

井上市長の毎回の熱心な傍聴と的確詳細な発表コメントに驚かされました。

懇話会の「要領」自体が建前であることはあたり前ながら、少なからずの会員が市政への小さいながらも参画＝提言を期待しているのは、募集要領に遠因があるのでしょうか、懇話会の初会で討議したいテーマでした。毎回のテーマは、ホットな施政の課題がいいですね。討議に活気が出るでしょう。会議ではないのですからまとめようとせず、会員の自由な意見の羅列で結構ではないでしょうか。市長の終了後のコメントが担当部署幹部への暗黙の指示となって生かされるでしょう。

市長が幹部職員の厚い壁に囲まれた「裸の王様」にも「お山の大將」にもなって欲しくはありません。普通の市民と交流する「懇話会」や出色の「出前講座」も形骸化が進んでいるとはいえ、井上市長の長期市政担当の仕組みづくりに多大な効能を有していることに改めて気付かされました。

会員になってから毎月の「市報」の拾い読みが熟読になりました。施政への関心度が向上したのでしょうか。

かすが市民懇話会の会員であったことを誇りに思います。お世話になりました。

田口 誠市

2 年間を振り返って

かすが市民懇話会（5 期と 7 期会員）の一員として、親しく会員の皆様方と、テ-

マによる課題から多様な意見交換や楽しい懇話に参加出来た事を嬉しく思います。

春日市は、誇れる古き奴国であり、貴重な遺跡文化財を大切に見守って、これからも次世代に明るい展望へと向って、市の活性を高めて行こうと案じています。

勉強になった事は、沢山ありましたが、その一部を選ぶと、以下の項目となります。

- 1 防災危機の管理四識（意識、認識、知識、組織）
- 2 3つの災害への備え（自分が出来る - 自助、地域が出来る - 共助、行政にしてほしい - 公助を、活用して役立てる。
- 3 子どもの実態と、コミュニティ・スクールの成果と課題
- 4 高齢者の積極的な好気をもって地域参加
- 5 奴国の丘歴史資料館の日頃見られない室内の見学や講師からの説明及び講話

特に「春日市を住み良い豊かな町づくり」への進路が開けて行ける事が、司会や記録係などをして、話し合いを学びとれたことは、大変な私の学びの収穫でした。

最後に市長さんを始め、市行政管理課の職員の方々から、懇話の諸準備や提言等の後押しをして戴き、大変にお世話になり、ありがとうございました。

春日奴国あんどん祭りを、盛り上げて「住み良い春日市に」を心のスローガンに、これからも啓発研鑽に努めたいと考えます。

野田 久雄

2 年間を振り返って

何回書いても長くなりそうなので、結論だけ記入します。

1 「かすがの逸品」

公募：「かすがの逸品」候補作品、市からの推薦を公募する。

作品展示：展示コーナーを設け、一定期間（2～3ヶ月）展示する。

作品頒布：作者の了解が得られた作品を希望者に頒布する。

寄付：収益相当分を福祉施設に寄付する。

2 懇話会の班編成

3班に分けて会議を進められていましたが、お互い初対面でなかなか話が弾みませんでしたので、できれば最初の6ヶ月くらいは、メンバーを固定化したらどうか、ある程度慣れてから、テーマ別編成に変更されてもOKかと思いました。

3 見学会

3回の現場見学会は大変有意義でした。少なくとも見学以後の会議では話のピントが合わせ易くなり、かなり具体性を帯びてきたように思いました。

懇話会で好評を得た見学会は、別途一般市民対象に公開、公募したらいいのではないかと思います。

今後もチャンスがあれば、リサイクルセンター、自衛隊基地の見学会などが実施されたなら、参加したいと希望しています。

古川 美穂子

2年間を振り返って

私は、春日市民懇話会で、今まで知らなかった市の姿を見せていただきました。

一番おどろいたのは、奴国の丘資料館へ行った時、春日市のその古い歴史です。非常に貴重な遺跡があり、日本の歴史の息吹を感じる場所であったとのことでした。

この事実をぜひ子どもたちに知らせ、市民にも知らせ、歴史を刻んで来たことを、これからの歴史を市民が作り刻んでゆくことを意識してほしいと思いました。

そのことから、市政を見ていくと、これからの未来を描く上で大きな展望を持ち、ビジョンを持った視線から現在の問題解決をしていく事が、お金と人を有効に価値あるものに作っていくことと思います。

社会福祉や教育なども含め、いろいろな面から市政を考察できましたが、テーマが多く深く話し合えなかったことは残念です。

古い昔から、この春日市は中国・朝鮮半島とは、交流や貿易があり、現在にいたっております。今後も世界と繋がる春日市が友好と共生の立場で、平和な都市として栄えてほしいと思います。

松尾 一昭

2年間を振り返って

はじめて市民懇話会に参加しましたが、私自身はこの2年間ほとんど役に立っていませんでした。でも、私個人にとっては、春日市の色々な事や場所（その裏側まで）の内容等を知り、そして、たくさんの人達にお会いでき、知り合いになれた事等、本当に有意義な二年間でした。

色々な人の話を聞き（市長、職員の方々も含む）、私の知っていることを話し、これからの春日市、子や孫に残すべき「ふるさと」として自慢できる春日市を作るために、そして他の市や町を参考にし、色々な角度から見て、よりよい案や新しいアイデア等、これからは私個人として、普段から考え、気にしておきたいと思います。また、チャンスがあったら、もう一度、参加したいと思います。

第7期会員の皆様、そして、関係者の皆様、ありがとうございました。本当にお疲れ様でした。

高野 光雄

2年間を振り返って

市老人クラブからの団体推薦、そして、途中交代、びっくりしました。何も分からず、懇話会に参加し、時間が経つに従って、自分の無能力にあきれ、反省ばかり、何の役にも立たず、ただ、教えて貰うことばかりでした。

大事な討議の時間でしたが、皆さん、よく勉強してあり、発言内容も立派でした。得るものが多かった。テーマに従い話の内容がまとめられ、市行政に反映されていくことでしょう。

各会員から知恵が集まり、小さな力が大きな力となり、どこかで生かされていくことでしょう。

考えさせられたこと。―――男性的、女性的な考え方は異なるが、当然でしょうが高齢者と若人の考え方に多少噛み合わない面もあるかに思えた。老人の脳活は衰え、働きが鈍く前に進まない。若人は元気があり勇気がある、頼もしい。高齢者の中に長話する人がいる。「くせ」でしょうが少しは遠慮してほしい。

短い期間でしたが、得るものがたくさんありました。何の役にも立ちませんでした。が、よい経験をさせていただきました。このことを糧として生かして行きたいと思えます。

大変お世話になりました。

軽部 雅子

2年間を振り返って

私は、春日市社会福祉協議会から推薦されて、市民懇話会第7期生会員として参加させていただきました。半ば仕事の延長として、自分自身の仕事内容にも活かせることができたらいいなという思いで参加しました。が・・・

会員の方々は、春日市をもっと住みやすくするにはどうしたら良いのかと本当に真剣で、毎回熱く語られることに圧倒される事もしばしばありました。

そういう方々と話ができたと知り合えたことは、私の中で大変貴重な体験となり、有意義な時間にもなりました。

また、私自身参加して良かったことは、話し合う内容の中に、福祉や地域活性化などをテーマに取り組まれたことです。

テーマ決めについては、会長さんや副会長さんなど、会員から出された沢山のテーマから、大変な思いをされて決められたという事に、本当にありがたく感謝しており

ます。

最後に、この市民懇話会は大変良い取り組みだと思っています。

できるだけ多くの市民に知っていただくことも大事ではないかと思しますので、よろしく願いいたします。

春日市がこれからも「住みやすいまち」と言われ続け、ますます発展していきますようお祈りいたしております。

黒川 宗人

2年間を振り返って

市民懇話会に2年間に亘り参加させていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

この会のよい点は、年齢を問わず自分の思いや考えを正直に表現出来るところではないでしょうか。また、ここでの一人一人の声が春日市に直結することで、まちの発展にも早く繋がるといった利点の多い会だと思っております。私はこの会に参加させていただいたことで色々な勉強をさせていただきました。多方面で経験された先輩方の思いや考えはとても重いものがあり、私もより一層春日市に目を向け意見交換が出来るようにならなければと反省しております。これからも市と市民が一丸となり、互いに何かを感じ何かを実行に移すことができる懇話会が続くことを願っております。

市民の声がより一層市政に届き、わが春日市が発展しますことをご祈念申し上げます。

重 正嘉

2年間を振り返って

平成22年7月に、市文化協会の薦めがあって、当懇話会に参画させていただき、心から深く感謝申し上げます。

春日市に、赴き40年近くになりますが、丁度春日市市政1年後と思いますが、当時福岡市内に出勤時、早朝当時の亀谷市長と良く出会っておりました。当初は、市長さんとは知りませんでしたが、広報等で知ることができ、そこで感じたことは、市長自ら市民の生活活動等現場をくまなく確認される姿に感銘いたしました。春日市には、明日がある、それは今の井上市政にも引継がれ、春日市民にとって、大変幸せな事と感謝いたしております

春日市政便り、平成23年度春日市都市計画マスタープランを見て、市政当時の理念がしっかりと根付いていると感じております。

「春日市緑の基本計画」緑の継承に重点を挙げ、私たち毎日の心身の健康にいかにか大切かを教えていただきました。

また、ご紹介の「改定 春日市緑の基本計画」冊子も一覽させていただきました。

そこで感じたことは、あくまで春日市を単位としたもので、今後、益々の少子高齢化が進む中、高齢者医療も年1兆円ずつ増加傾向を考えると、いかに健康年齢を伸ばし、介護を必要としない健康づくりが問われているかを考えさせられます。

つきましては、後世に残る施設、制度等長期計画を考えていただきたい。

『緑の基本計画』22 ページ(2)系統別緑の課題で、筑紫地域の緑の骨組みの欄がありますが、その中に旧筑紫郡を単位として

- 1 『相互に利用する大規模な公園緑地』に明記されている施設に、ミニ自然遊歩道を計画してほしい。

ファミリーで、自然の素晴らしさを体感できる施設の取り組み。

九千部山塊を中心とした、天拝山～グリーンピア那珂川にいたるもの。

- 2 那珂川一の瀬公園～福岡市南区(香蘭大学)までの那珂川沿い両サイドに、サイクリングロードの計画。いずれも、ポイントにコミュニティバスの運行もいかがでしょう。

春日市の住まいの範囲が一段と広がることと考えます。

再度申しますが、後世に残る事業を広域自治体で計画していただきたい。

かすが市民懇話会に参画させていただき、よりよい郷土を考える様に、また、あらゆる点でポジティブに考え行動する様になったと感謝いたしております。

ますます、住みよい春日市市政にご期待申し上げます。

谷 恵美子

2 年間を振り返って

私は団体推薦で懇話会に参加させていただきました。

当初は無責任なことなのですが、「かすが市民懇話会」の存在すら知りませんでした。最初に参加した際に、こんなにも春日市のことを良くして行こうという方達がいらっしゃることに感動いたしました。

それまでの私は、春日市に生まれ育ち、春日村・春日町・春日市と時代の流れを経験していながら、行政に目を向けることなく、過ごして来た様な気がします。懇話会は、春日市を知るための私自身の勉強の場として、学んでいけたらと思いました。

2 年間を振り返って見て、色々なテーマで懇話しました。

中でも、子育て支援の懇話では、職員の方のお話により、共働きの家庭が主流になる中、地域での見守りが大切だと言う事でした。早速、「ついで隊」に登録し、見守り活動に協力していきたいと思います。

普段見ることの出来ない図書館（バックヤード）も見学させていただき、また、奴国の丘歴史資料館では、展示物の凄さに感銘を受けました。天体観測施設「星の館」など、春日市には素晴らしい施設があることをとても誇りに思いました。

懇話会に参加させていただいたことは、私にとって、とても新鮮で貴重な経験となりました。これからは、行政に関心を持ち、お手伝いできることがあれば、協力していきたいと思います。

ありがとうございました。

中川 紀美代

2年間を振り返って

私達家族も47年に春日市に住み、40年になります。その頃に私達が住んでいる所は、田植の頃になると蛙の合唱団で悩まされました。なんと田舎と感じ、今は、マンション一戸建と40年前の思いがけないまちに。それにしたいがい、教育、高齢者、福祉、地域と色々な問題が出てきました。

私は懇話会に参加し、たくさんの課題にびっくりしました。グループ懇話で話し合い、発表しますが行政の返答がないのが残念です。

春日市も人口が10万人以上で大変でしょうが、1つ1つ答え住みよい春日市にしたいと思っています。

私自身2年間勉強させていただき、本当にありがとうございました。感謝いたします。

今後、ますます活躍できる場所にしてください。

久富 典子

2年間を振り返って

データ 春日市子ども会育成会連絡協議会からの団体推薦で、この2年間、市民懇話会第7期のメンバーを務めさせていただきました。身近なPTAとか子ども会の役員なら、何をすればいいのかおおよその予想はつきますが、「春日市について」何を懇話すればいいのか、正直何も分からないままの参加ではありましたが、案ずるより何とやらで、どうにか2年間、役を果たすことができました。

年齢も経歴も異なるメンバーの方々との会ではありますが、皆さん、春日市に対するそれぞれの思いを強く持っていらっしゃって、今までにない視点で「わが町春日」

を見つめるようになったのは、大きな収穫です。また、市長をはじめ行政の方々の丁寧なお仕事ぶりを、いまさらながら再認識することができました。市の動きについて少しでも知ることができたことと、声を出せば耳を傾けていただくことができるという安心と信頼を得ることができ、とてもよかったと思います。

翻って、私自身がこの会に参加して何かを為し得た手応えについては心もとないのですが、これからの日頃の生活で、市政に対する興味・関心をもって接することができる自信はつきましたし、周りのかたにも、その思いを伝えることができるようになりました。

今後とも、行政と市民を結ぶ、敷居の低いこのような会が、もっと裾野を広げて発展していくことを願っております。2年間の有意義な時間を、ありがとうございました。



かすが市民懇話会会員名簿 (平成23年度)

かすが市民懇話会 第7期会員名簿

(任期:平成22年7月1日～平成24年6月30日)

番号	名前	備考
1	伊藤 信輔	市民公募会員 平成23年度 会長
2	井上 池畦子	市民公募会員
3	梅崎 孝彦	市民公募会員
4	柿本 人司	市民公募会員
5	齋藤 泰英	市民公募会員
6	坂本 鴻	市民公募会員
7	田口 誠市	市民公募会員
8	野田 久雄	市民公募会員
9	古川 美穂子	市民公募会員
10	松尾 一昭	市民公募会員

かすが市民懇話会 第7期会員名簿

(任期:平成22年7月1日～平成24年6月30日)

番号	名前	備考
11	高野 光雄	団体推薦会員 春日市老人クラブ連合会
12	軽部 雅子	団体推薦会員 春日市社会福祉協議会
13	北村 哲	団体推薦会員 春日市身体障害者福祉協会
14	黒川 宗人	団体推薦会員 春日市商工会
15	重 正嘉	団体推薦会員 春日市文化協会
16	谷 篤史	団体推薦会員 春日市小中学校PTA連絡協議会
17	谷 恵美子	団体推薦会員 筑紫農業協同組合
18	中川 紀美代	団体推薦会員 春日市体育協会
19	長野 彰	団体推薦会員 春日まちづくり支援センター・ぶどうの庭
20	久富 典子	団体推薦会員 春日市子ども会育成会連絡協議会 平成23年度 副会長

かすが市民懇話会 第8期会員名簿

(任期:平成23年7月1日～平成25年6月30日)

番号	名前	備考
21	今村 太陽	市民公募会員 平成23年度 副会長
22	緒方 寛	市民公募会員
23	神代 俊史	市民公募会員
24	小山 雄二	市民公募会員
25	篠原 貴美恵	市民公募会員
26	西村 瑞枝	市民公募会員
27	東 強志	市民公募会員
28	前園 敦子	市民公募会員
29	松原 至	市民公募会員
30	吉田 紀美	市民公募会員 平成23年度 副会長